女子ソフトボール
トヨタ自動車 レッドテリアーズ

聞き手／武藤泰明

連載第10回は、トヨタ自動車女子ソフトボール部「レッドテリアーズ」の福田名誉監督を訪ねた。

武藤　過去2回トヨタ自動車の女子ソフトボール部監督をされ、2回目のご就任（2007～16年）以降チームはめちゃくちゃ強くなっていますよね。何をなさったんですか。

福田　08年の北京五輪に我々のチームから伊藤幸子選手が日本代表として選ばれました。彼女を応援するため、当時の役員やチーム顧問と現地に行ったのですが、そのときに世界のソフトボールを実際に見てもらったのが一つのきっかけだったと思います。チーム強化に当たり、会社全体が最大限のバックアップをするという話をいただきました。当時の日本代表選手と我々の選手は体つきから何から全て違っていましたから、まずは代表選手に見合う選手を探すことにしました。

もう一つ、時間が必要でした。就任当時は、社業をやってからスポーツをやるという風土がありましたが、それでは時間が足りないので、時間を下さいという話を会社にしたのです。

武藤　それは社業から離すという意味ですか。

福田　そうです。そもそもトヨタの企業スポーツの目的は、会社に明るい話題を提供し、職場を活性化することです。我々が頑張ることで職場に貢献できるということを会社に理解してもらい、少しずつではありましたが時間をもらえるようになりました。

武藤　やはりそうすると強くなるのですね。

福田　任せてもらうことで、こちら側も責任があるわけで逃げ道はもうありません。「勝ちます」と言ったのですから。

武藤　選手を採るとき、体格の違いはもちろんでしょうが、合わせてどういう部分をご覧になっているのですか。

福田　体格的な部分では、まずは身体の強い子ですね。技術がなくても身体の強い選手というのは成長しますし将来性があります。それから、「このチームで勝ちたい、優勝したい」「このチームで全日本に行きたい、世界に行きたい」という選手であること。チームへの愛着がある選手は、いろいろ厳しいことがあってもブレないんです。

武藤　東京五輪では久々に競技種目に選ばれました。そのことでプラスの影響はありますか。

福田　ありますね。08年の北京五輪優勝がどのくらい今の選手の記憶に残っているか分かりませんが、前回のリオやロンドンを見て、種目は違っても、ああいう舞台に関わってみたいという気持ちは高まるでしょう。

武藤　今後目指すところも、やはり全日本や世界大会？

福田　はい。私がやってきた10年は勝たなければならない10年でしたが、今のように勝ち続けていると、今度はこれを維持するのも大変です。それに、強くなったことで支援してくれる会社や地域の人も増えました。今では、地元であれば3～5千人が応援に来てくれます。これからはそういう人たちにさらに感謝し、行動を起こす必要が増えてくるでしょう。

Point of View

「徹底」が生む、よい緊張感

福田さんは、社会人野球の経験者である。仕事は人事畑が長い。スポーツと企業の両方が分かっている人である。だからお話を聞いていて、企業の管理職がチームの管理をしているという、企業スポーツならではの安心感がある。会社とスポーツの間に、よい緊張感はあるが対立軸がない。

おそらく、基本方針はトヨタ社と同じく「徹底すること」である。選手のスカウト、練習時間の確保など、世界レベルを目指した方針が実行されている。また方針の徹底は競技に留まらない。競技会後のサイン会には選手全員が参加する。

選手の大半は競技引退後、離職せず社員として仕事をするという。これも、方針の徹底の成果なのだろう。

武藤泰明（むとう・やすあき）
早稲田大学スポーツ科学学術院教授。東京大学、同大学院（修士）卒。三菱総合研究所主席研究員を経て現職。専門はマネジメント。

福田五志さん（ふくだ・いつし）
1956年生まれ。1997～99年、2007～16年、トヨタ自動車女子ソフトボール部監督。17年より同名誉監督。日本リーグ通算205勝66敗。日本リーグ優勝5回、全日本総合選手権優勝4回。2015年U24日本代表監督、16年TOP日本代表監督。

イラスト＝太田丈晴